

～缶のつくり方を一から見直す～

# これまでにないコンパクト製缶システム 「aTULCコンパクトライン」



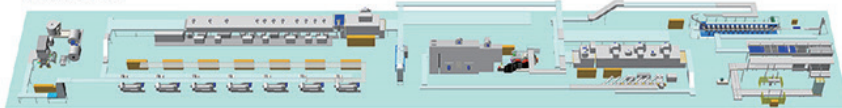
PETボトルは利便性があり、容器製造の投資額が低く、オペレーションが容易で省スペースなので導入のハードルが低いため、飲料メーカーの充填場所で容器製造と充填が一貫した製造モデルであるために合理的なシステムである一方で、海洋プラスチックをはじめとする問題や、リサイクル率がアルミ缶などと比べて低いというデメリットがあります。一方でDI缶（DRAW & IRONING CAN）と呼ばれるアルミ缶は、資源価値が高いためリサイクルされている国が多く、リサイクル率が高いというメリットがある一方で、生産設備の投資額が高く、オペレーションの難易度も高い、さらには排水処理設備等の広いスペースが必要というデメリットがあるため、飲料メーカーが充填場所で容器を製造していません。

新しく開発したコンパクトラインは、「リサイクル率の高いアルミ容器」+「作りやすいPET容器」のいいとこどりシステムで、循環型社会の貢献とCO<sub>2</sub>削減につながることが期待できます。

当社のaTULC開発・生産技術とグループ会社のStolle社の製缶設備技術を組み合わせることでコンパクトラインが実現できました。配線・配管が一体型で省スペースな製缶システムです。3つのコンセプト「省スペース、短工期、低コスト」をもとに、生産システムを構築し、従来の大型ラインの半分程度のスピードで年間2～3億缶を製造可能です。製缶設備等をモジュール化して現地工事の工期短縮、缶種、製缶数等の要望に応じて最適なシステムを提案できます。

## 導入イメージ

従来のライン



充填ライン



800m<sup>2</sup> ▶ 2～3億缶/年  
3,200m<sup>2</sup> ▶ 5～7億缶/年



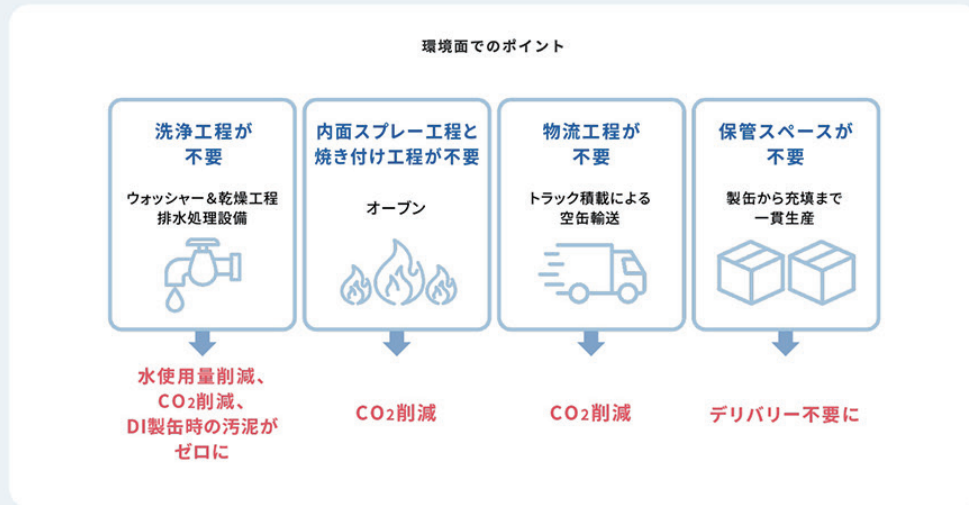
aTULCコンパクトライン



従来のDI缶製造スペース3,200m<sup>2</sup>と比較して  
800m<sup>2</sup>と大幅な省スペース化が可能に!

環境負荷が低い「aTULC」と組み合わせることで、材料～製缶～充填～販売の各バリューチェーンを統合した付加価値が提供できます。

※「aTULC（エータルク）」とは、アルミニウムとポリエステル樹脂のハイブリッド材により、缶胴成形時の潤滑剤が不要となり、成形加工後の洗浄に水を使用しない容器。



#### aTULCコンパクトラインがもたらす、さらなる価値

一箇所で一貫した作業ができるため、缶の軽量化の課題であった、製造し充填するまでの輸送に耐えられるようにする強度問題をあらゆる場面で解決でき、東洋製罐が開発する極限軽量缶への充填、販売もどこでも可能となります。

詳しくは

[Packaging「極限軽量缶への挑戦」へ](#)